第十

金錢——其用法と濫用

籠の中に之を藏さんためにあらず、
多くの從者を得んためにあらず、
獨立と稱する
光榮なる特權を得んためなり。

バーンス

貸手となる勿れ、又借手となる勿れ、
貸金は取り戻す能はずして、
爲めに友を失ふこと屢々なり、
且借錢は節儉の鋒を鈍くす。

シェークスピーア

金錢の事を取り扱ふに決して輕躁なる勿れ、——
金錢は品性なり。

サー・イー・エル・バルワー・リットン

人が金錢を取扱ふ仕方——即ち之を儲け、之を貯へ、之を費す遣口——を

金錢の正しき使用

見るは、其人が實行的知識の如何を知る最良の法なり。金錢を以て人生の主要なる一目的となすは決して正當ならずと雖も、金錢は身體の便安と社會の安寧とを計る方法となること大にして決して哲學的輕蔑をなすべき瑣細の物にあらず。まことに人性の最美なる性能にして、金錢の正用と密接に關係するものあり。例へば寛大、正直、誠實、犧牲の精神及び勤儉、豫備の實際道德の如き是なり。之に反して不正なる金錢の慾を抱くものは、右等性能の反對なる貪婪、詐僞、不正、私慾等をあらはす。又其資財を誤用し濫用するものは、不勤儉、奢侈、不用意等の惡德をあらはす。されば

智識の試驗となる

ヘンリー・テーラーは、其思考深き書『人生の註解』に於て名言を吐いて曰く『金を儲け、貯へ、費し、與へ、取り、貸し、借り、遺すことの正しき人は、完全なる人と思ひて大差なからん』と。

現世に於ける安穩は、誰人も正しき方法を以て得んと努めて宜しきものなり。安穩は身體的滿足を得、而して身體的滿足は、善良なる天性の敎養に必要なるものなり。安穩はまた人をして其家族の衣食を給するを得しむ。使徒も言ひぬ、之なくしては人は『不信者よりも惡し』と。此目的を抱いて人生に成

功せんとしてなす努力こそ、其自身にて一の教養なれ。即ち人の自重の念を勵まし、實際的性能を養ひ、忍耐、堅忍等の諸德實行の力を訓練す。先見あり注意深き人は、又思慮深き人たらざるべからず。彼は單に現在のみ生存するにあらず、先見豫想を以て未來の準備をなす。彼はまた節制する人たらざるべからず、克己の德を養はざるべからず。克己ほど品性に力を增すものは他にあらざるなり。ジョン・スターリング(譯者註、十八九世紀、英の評論家)の言や眞なりと謂ふべし。『最惡なる教育にても、克己を教へなば、最善の教育の克己を教へざるもの(他の總てを教ふるも)に勝る』と。羅馬人は「克己」(ヴータス)の語を以て又勇氣のことを呼べり。克己と勇氣、要するに是れ同事の異名のみ。一は精神的(又は無形的)意味にて云ひ、他は物質的(又は有形的)意味にて云ふ。誠に總ての道德中の最高なるは自己に克つこと、即ち克己なり。

故に克己の教、即ち未來の善の爲めに現在の滿足を犧牲にすることは、最難なる教なり。最も苦難の業に從事するものは、其獲し金を最も貴むならんとは、自ら推察せらるべき所なり。然れども、多くの人は其所得を飲食に消費

克己の德

し盡すこと甚だ早きを常とす。爲めに彼等は自己の力弱くして、勤儉者に賴ること甚だ大なり。世には充分の金ありて安穩と獨立とを得つゝあれど、困難の場合來るときは、僅に向ふ一日間の用意を有するのみなるもの甚だ多し。かくの如きは實に社會にある薄弱、苦難の一大原因たり。或時一委員がジョン・ラッセル卿(譯者註、十八世紀英の政治家、大宰相たりしことあり)を訪うて、英國勞働階級に賦課する租稅の事について論じたる時、此高潔なるラッセル卿はかく語りぬ。『御身は次の事を信じて可なり。此國の政府は、勞働階級に賦課するに、彼等が飲酒の爲めに要する程の多額の金を以てせず』と。公共の大問題多しと雖も、此事より重要なるはなからん。――即ち勞働者の改善は、何の改善よりも緊要なるものなり。『自助と克己』は、人をして善き生活をなさしむるもの、恐るべきは今日の愛國主義が、個人の勤儉、節約等の如き普通の事に殆ど注意せざることなり。勞働階級の純正なる獨立を保つは、唯かゝる道德の實行にのみに依るものなるを。靴工にして哲理を好むサミュエル・ドルー言ひぬ『愼慮、儉約、及び善行は、惡しき時間を修繕する善工人なり。

自己に稅を課す

節約は獨立に必要なり

是等の工人や、家に居るも場所を塞ぐことなく、而も今日まで國會を通過せし總ての改革法案に勝りて、人生の禍害を除き去る』と。ソクラテス(譯者註、希臘の哲人)曰ひぬ『世界を動かさんと欲するものをして、先づ自己を動かさしめよ』と。古詩にもまた是れあり、——

若し各人が自己の改善に
其思ひを注ぎなば、
如何に甚だ容易く
御身は一國を改善し得るよ。

然れども、人は皆思へらく、教會や國家を改革する方、自己の惡習慣の最小なるものを改革するよりも遙に易しと。而して改革等のことに於ては、自己より始めず、第一に他人より始めんとすること世の常にして、又我に快しとなす。甚だ誤れりと謂ふべし。

不用意者の薄弱

其得し金を以て直に飲食に費すは、如何なる職業の人と雖も、卑劣の人と謂ふべし。彼は無能無力のまゝにして、社會の裾にぶら下り、たゞ四時の遊樂

をこれことゝす。彼等は自己に對して一の尊重をも有せざるが故に、他人の尊重を得るに失敗す。商業上の危機に於ては、かゝる人は必ず敗れて進退維谷るものなり。勤儉は小なりとも、貯蓄を人に得しむるものなるが、彼は勤儉を缺きて、萬人の賤視する所となる。若し彼等にして正しき感情を有しなば、妻子將來の運命を思ひて、慄然として恐るゝ所あらん。コブデン氏(譯者註、十九世紀英國有名の代議士、正義高潔を以て名高し)ハッダースフィールドの勞働者に言ひしことあり『世界は常に二階級に別れ居れり、貯蓄せしものと消費せしものと。換言せば、勤儉の人と奢侈の人と。總ての建物、工場、船舶、橋梁、其他社會を文明幸福にせし大工事の建造は、貯蓄者、勤儉者の爲せし所なり。而して其財を消費するをことゝせし者は、常に勤儉者の奴隷たりき。まことに斯の如きは天然の法則なり、上帝の攝理なり。余若し不節約無思慮、怠慢にして進歩發展し得と人に教へなば、余は正に一個の欺瞞者なり』と。

節儉は重要なる公共問題なり

リチャード・コブデン及びジョン・ブライトの忠言

ブライト氏(譯者註、十九世紀英國有名の代議士、前のコブデンと共に清廉高潔を以て名高し)が、千八百四十七年ロッチデールの勞働者集會に與へた

勞働者も獨立を獲るを得る

る忠言は、同樣に健全なり。彼其所信を吐露して曰く『正直と云ふ點より見れば、正直なるものが各階級の間に略同樣にあるを見る』と。而して次に述べて曰く『各人、其現在の地位善ければ之を維持し、惡しければ之を高めんとす。之を爲すに誰人にも又如何程の數の人にも確かなる道唯一あり。――勤勉、節儉、節制及び正直の諸德を實行すること即ちこれなり。人若し其地位が精神的又身體的に安慰充足ならずと思はゞ、此地位より我身を高めん公道他にあるなし。唯等しく下層の者が、以て絶えず其身を高めつゝある所以の諸德を自らも亦實行すべきのみ』と。

多くの勞働者の境遇が、有用、貴重、幸福なるべからずと云ふ理由は毫もなし。勞働階級の人にして、勤儉、篤實、善良、有福なる人ありしが如く、今の勞働者の全體も(殆ど除外なく)亦然ることを得べし。或人既に爲せしことは萬人皆困難なくして之を爲すを得ん。同一の方法を用ひよ、さらば同一の結果生ぜん。各國皆日々の勞働にて生活する人の階級を有するは、上帝の勅命にして、疑ひもなく賢良正當のことなり。然れども、勞働階級が節儉、安穩、明智、幸福な

らざるは、是れ上帝の攝理なるにあらずして、彼等自身の懦弱、放肆、悖戾なるに起因せり。自助の健全なる精神を勞働者の中に涵養せしめよ、さらば如何なる方法にも勝りて勞働階級の地位を高めん。而して是れ人を引き下して自己を上ぐるにあらず、信仰、智力、德行の尙高く尙進める標準に自己を上ぐるなり。モンテーン(譯者註、十六世紀、佛の思想家)曰ひぬ、『凡て道德倫理の學は、世に顯貴なる人に適用せらるべきと等しく、普通一般の人にも適用せらるべし。誰人と雖も、人間の境遇の全部を自身に有す』と。

人、眼を放ちて前方を見ば、吾人の用意すべき重なる災禍あるを知らん。即ち失業、疾病及び死亡これなり。失業と疾病とは、或は之を免るゝを得ん、されど死は避くべからず。然れども災禍起るの時、自身のため、又自己の家族(家族は自己に賴りて其安穩と生存とを保つものなり)のため、出來るだけ多く、患難の抑壓を弛むるやう努め計るべきなり。是れ注意深き人の職責なり。此點より見れば、正直なる金儲と節約とは、最も重要なり。正當に獲たる金は、忍耐、勤勉、不撓努力の表彰なり。又誘惑に打ち勝ち、志望の酬ゐられし表彰なり。而

して之を正當に費すは、愼重、先見、克己(男性的性格の眞根柢)を表明するものなり。金錢は多數の眞價眞實用なき事物を代表することありと雖も、又多數の價値ある事物を代表す。食物、衣服、家計上の滿足のみならず、個人の自重と獨立とを代表す。故に貯金は勞働者に取りては、窮乏に對する障壁なり。こは彼に立脚地を與へ、やがて善き日の來るまで、快活と希望との中に待つを得しむ世に於て更に堅實なる地位を得んとする努力は、それだけにて其中に一の權威を有し、人を强精にし改善す、又こは人が行爲の自由を大にし、人に將來の努力のため、其力を節約するを得しむ。

不用意者の束縛

然れども、常に窮乏の淵に瀕し居る人は、奴隷の境遇を距る甚だ遠からずと謂ふべし。彼は如何なる意味に於ても、自己の主人にあらず、常に他人の束縛中に陷り、其命の儘に從ふの悲境に落つる危險あり。彼は或意味に於ては屈從的なるを免れず。何となれば彼は大膽に社會を見ること能はず、逆境に處しては施與を求め、或は救恤に賴らざるべからず。若し其業を失ふときは、彼は他の業に移るの資を有せず。「リムペット貝」が常に岩に固着するが如く、

節約の意味

其寺領に固着せざるべからず。(譯者註、寺領に附屬して施與に賴るなり)而して移轉も移住もすること能はず。

獨立を保たんがために要するものは、唯一節約の實行のみ。節約をなすには、優れたる勇氣を有せず、又卓越せる德行をも要せず、普通の精力と普通人の能力あれば足れり。節約と稱するもの、畢竟するに、たゞ秩序の精神を家事の處辨に應用したるもののみ。節約とは、處辨、正確、愼重及び冗費を避くることを意味す。節約の精神は、吾等の聖なる主イエス・クリストの數言にあらはされたり。曰く『少しも廢はざるやうに、其餘の屑を拾ひ集めよ』と。(新約聖書約翰傳第六章十二節)彼の全智全能を以てして、尙ほ且つ人生の小事を輕んぜざりき。而して其無限の力を人々に現はしつゝある時も、萬人の必要とすべき細心について價値ある報をなしぬ。

節約は又未來の善福を確保せんがため、現在の滿足に反抗する力を意味す。此點に於ては節約は動物的本能を征服するに理性を以てすることを示す。節約は吝嗇とは全く異なり、何となれば人に物惜みせざることを、最も可

能ならしむるが節約なればなり。節約は金錢を一の偶像とせず、之を有用なる動因と認む。ディーン・スキフト(譯者註、十八世紀、英の著作家)の言ひし如く『吾人は頭腦中に金を持つべし、心情中に持つべからず』と。節約は愼重の娘、節制の姉妹、自由の母と名づくべし。そは明かに品性を保持し、家庭の幸福を保持し、社會の安穩を保持す。簡言せば、節約は自助を其最良の形の一にて表はせしものなり。

フランシス・ホーナー父ナー、ふり忠言を受く

フランシス・ホーナー(譯者註、英國の政治家)の父は、ホーナーが世に出立する時、次の忠言を與へたり。『余は萬事に於て御身の便安を得んことを欲するもの、節約の必要を如何に強く言ふも、尙足らざるを思ふ。こは萬人に必要なる德なり。淺薄なる人、或は之を輕蔑せんも、こは實に高志の人の大目的なる獨立に導くものなり』と。此章の冒頭に掲げしバーンス(譯者註、十九世紀、蘇國の詩人)の詩句は、正しき思想なり。されど不幸にして此詩句は彼の實行より高かりき。彼の理想は其習慣より勝り居りき。バーンス將に死せんとして、病床より友に書を贈りて曰く『悲しいかな、クラークよ、余は最早生命覺束なし。バーンスの憐れなる寡婦と六人の弱き孤兒とよ、かく思ひ來りては余は婦人の涙の如く弱し。此事やまことにあり餘ること――これ實に我病の半をなす』と。

ロバート・バーンス

収入以内の生活

誰人と雖も、其收入金額の內にて生活するやう計るべし。これが實行は正直の眞髓に屬するものなり。蓋し若し人、自己の收入の中にて正當に生活するやう計らずば、彼は不正當に他人額上の汗に寄食し居るものなり。經費について不注意にして、唯自己の滿足をのみ思ひ、他人の便安に關せざるものは、其が金錢の眞用法を悟るときは、時期既に晩きに失せるなり。是等不勤儉者流は、たとひ天性物惜みせざる質なりとも遂には甚だ野鄙なることを敢て爲すに至るべし。彼等は時を費すと同樣に其金を費し、後拂ふ約束にて手形を記し、金儲の時期あるべきを豫想し、かくの如くにして、遂に續々として借財をなすの已むなきに至る。而して借財は自由獨立の人としての彼等の行動をいたく阻碍す。

ベーコンの格言

節約の必要あるときは、小金儲をなすよりは、寧ろ小貯蓄をなすべしとは、

浪費者

ベーコン卿の格言なりき。多くの人、有害無益に金錢を消費して意とせざれど、若し之を貯へなば、一生の獨立幸福の基をなすこと多し。かゝる浪費者は、己自ら自己の惡敵たるなり。而も彼等は一般に言りて曰く『現世』は實に不正悖逆の世なりと。されど人自ら、己の友たらずば、爭で他人の我に友たることを求め得べき。資財少くも秩序正しき人は、常に其懷中に多少を餘して、他人の救助に準備す。されども總てを消費する浪費粗奢の徒は、決して他人を助くべき機會を見出す能はず。然りと雖も、齷齪として徒らに心をのみ惱ます、は、節約の精神を誤るものなり。生活及び處辨に於て心狹きは、一般に淺眼者にして失敗の基となる。諺に曰く、一片(ペンニー)の精神は決して二片(ペンス)にならずと。物惜みせざるは、正直と等しく、つまり最上の政略たるなり。ギーカー・オブ・エークフィールド(譯者註、十九世紀英の小說家ゴールドスミスの傑作)中のジェンキンソンは、其親切なる隣人フラムボロウより毎年、種々の仕方にて金を詐取したり、而も彼は曰ひぬ『フラムボロウは徐々として富裕になりつゝあり、然るに余は赤貧となり、遂に牢獄に入る身となれり』と。而して實際の人生

負債に陷ること

には、物惜みせざる正直の方便に依りて大なる成果を得し例甚だ多し。

諺にこれあり『空虛(から)の袋は眞直に立つ能はず、負債に陷れる人も亦然り』と。又負債の中にある人が、眞實ならんことは難し。故に世人曰く虛言は負債の背に乘りて行くと。負債者は貸主に對して、其借金の支拂を延期せんため種々の口實を造らざるべからず從つて又虛言を設くることあるなり。健全なる決心を實行せんとする人が、最初の借財をなすを避くるはいと易し。然るに、第一の借財をなすに容易なるときは、これが誘惑となりて第二の借財をもなすに至る。かくして不幸なる借財者は、忽ち借財の取り圍む所となりて、後如何に勤勉努力するとも、之より脫することは能はざるなり。負債の第一歩は、虛言の第一歩の如し。一度之をなすときは、殆ど之を續けざるを得ざるに至る。かくして負債は負債に次ぎ、虛言は虛言に次ぐ。畫家ヘードン(譯者註、十九世紀、英の畫工)は初めて金を借りたる日より退歩を始めたり。彼は『借金に行くものは、悲憂をなしに行くなり』と云ふ諺の眞實を實現せり。其日記の中に著しき一節あり『茲に負債、債務始まりぬ、是より余は決して脫する能はざ

ヘードンの負債

ウエリントン侯の負債論

ワシントン

セント・ギンセント伯爵、其手形拂はれず

ひしことあり『余は自ら我勘定を拂ふことを大に重んず。余は誰人にも之を爲さんことを勸む。以前には余信任せる一召使をして之を拂はしめたり。然るに或朝、一年又は二年の滯拂なりとて詰求書を受け、驚くこと一方ならず。然れども之がために、人をして拂はしむるの愚を止むるを得たり。召使は余の金を以て投機をなし、余の勘定を拂はざりしなり』と。ウェリントン又負債について語りて曰く『負債は人間を奴隷となす。余は金錢に窮乏を告げしこと屢々ありて、其如何なるものなるかは知れり。然れども余は決して負債の中に落ちしことなし』と。事務の細事に關しては、ワシントンも亦ウェリントンと等しく特異なりき。彼は家の細微なる支出をも審査するを卑めざりき。誠に著しき事業と謂ふべし。其亞米利加合衆國の大統領たふ高位を占め居りし時も、常に收入の中にて正直に生活せんと定め居たり。

セント・ギンセントの伯爵、水師提督ジャーギスは、其早年時代の奮鬪について、又就中負債より脫せんと決意せしことについて語れり。彼語りて曰く『余の父は家族大なりしも、收入多からざりき。父は余が人生に出て立つ時、二

ジョセフ・ヒューム英國生活の程度

十磅を與へたり。余の彼より受けしものとては、唯これのみ。海上に一地位を得て久しくありて後、余は約束手形を父に送りて更に二十磅の送金を乞ひたり。然るに父は此手形に對しては拂ひ得ずとて送り返し來れり。余は此叱責に心惱まされぬ、乃ち決心して曰く(此決心を後決して破りしことなし)確に拂はるゝ見込なくしては、決して手形を用ひずと。

余は直に余の生活の有樣を變じ、同食の仲間を離れ、獨り住みて船より、給する食事を取り(余は之にて全く充分なりき)、自ら我衣を洗ひ又修繕し、臥床の被布を以てヅボンを作れり。かゝる方法にて、我名譽を恢復するに足る程の金を貯へ、以て借財を返したり。而して此時より今に至るまで、余は我收入以内にて生活するやう留意し來れり』と。ジャーギスは、六年の間、貧苦を忍び、純直を維持し、其職を學びて成功し、勳功と勇敢とに依り堅實に逐次に昇進して、遂に最高位に上れり。

英國生活の程度は凡て高きに過ぐとヒューム氏(譯者註、十九世紀、英の政治家)が下院にて述べし時は、空しく洪笑を買ひしと雖も、實は正當の言を發

高きに過ぐと雖ず

せしなり。中等社會の人民は、其收入を超ゆることなしとするも、其收入一杯に生活し易し。而して外貌風采を飾るを好む。外貌を飾り虛飾を好むは、廣く社會に不健全の結果を及ぼすものなり。兒童を紳士(又は寧ろ優美高尙の人)として育てんとの欲望多し。而も其結果や屢々單に無益の徒を造らんのみ。かく育てられたる兒童は、服裝、風采、贅澤、遊樂等を好むに至る、是等の事や決して男性的又は君子的品性の堅實なる基となることなし。而して其結果たるや、所謂『若紳士』の多數を世に出せども、是等の者は、時々海より取り出す廢船の如く、只甲板上に一の猿を有するのみ。

優雅ならんとの欲望

外觀を優美になさんとの欲求世に甚だ多し。恐るべきことなり。人は屢々『正直』をも犧牲に供して外觀を保ち、富まざるも、富裕の如く見えんと欲す。人は『尊重すべく』見えんことを欲す、其『尊重すべき』が最も卑しき意味に於てなるも、又單に卑むべき外形についてなるも敢て關せず。人今日の境遇は、上帝が之に招き給ひしもの、而も人は此境遇の中に忍耐して進む勇氣を有せず、時流を追ひて華奢なる生活をなさんことを欲し、かゝる生活をなす

を喜び、吾人が屬する此空虛華美なる俗世の虛榮を滿足せしめんことを求む。社會の圓舞臺に於ては、前の席に進み占めんとの不斷の抗爭壓抑あり。此舞臺の中央に於ては、凡ての高貴なる克己の決心踏みにじられ、多くの美しき性質碎かれて死す。凡ての浪費、凡ての慘苦、凡ての破產、皆此外形的世俗的成功の光輝を以て他を眩せんとする欲望より出づ。此有害なる結果は種々にあらはる。即ち自ら不正直を敢てしながら、貧乏に見えざらんとする欺瞞あり。僥倖を欲して死にもの狂ひの『山仕事』をなすものあり、而して之に失敗するときは、憐むべきは其失敗者にあらずして、其不幸のために迷惑を蒙る罪なき家族なりとす。

ナピアー印度駐在の士官に命令す

故サー・チャールス・ナピアー(譯者註、前出の將軍)は、印度に於ける指揮官を辭して歸る時其反對意見を公表するの大膽誠直を敢てせり。即ち彼は其最後の『印度軍の士官に對する一般命令』に於て、印度の英國青年士官が放蕩の生活を送りて、羞づべき負債に陷るを攻擊せり。サー・チャールスは、此有名なる命令書(今は殆ど失はれたれど)に於て、強硬に論じて曰く『正直は完全なる

紳士の人格には缺くべからず』と。曰く『代を拂はずして三鞭酒を飲み、麥酒を飲み、又代を拂はざる馬に跨るは詐僞者にして紳士にあらず』と。眞敬入以上の生活をなして、奢侈のため負債を得(時として其召使より從所に呼び出さるゝは、たとひ其職の故を以て士官と稱し得るも、紳士にはあらず總指揮官ナピアーの意見に據れば、常に負債の中にある習慣は、紳士的感性に不感ならしむ。軍人は只戰ひ得るのみにて充分なりと謂ふを得ず、戰ふのみならば鬪犬すら之を能くす。彼は其約を守りしや、――彼は其負債を拂ひしやかくの如きは實に眞正の紳士、眞正の軍人の生活をあらはす點なりと。是れナピアーの主張する所なり。英の士官を古のベーヤード(譯者註、十五六世紀佛の武人)の如くならしめんとす、是れナピアーの求むる所なり。彼は士官等の『恐怖心なき』を知れり。されど彼は彼等をして更に『批難なき』ものたらしめんと欲せり。印度に於て、英本國に於て、多くの勇猛なる若き將卒あり、炎々たる猛火の中に、驀然虧隙に突入し、奮鬪激進敢て身命を惜まず、而も彼等は其五官に訴ふる小なる誘惑に反抗する道德的勇氣を奮はず、又奮ふ能はず。

誘惑に抵抗すること

彼等は快樂私慾の招きに對して勇ましく『否』と言ふ能はず。『余は爲す能はず』と言ふ能はず。彼等は死をも敢て厭はず而も其同輩の嘲笑には忍ぶこと能はざるなり。

青年、人生を過ぐるや、其道の兩側には誘惑者相續いて立つ。此誘惑に打ち負くるときは、其避くべからざる結果として大小の墮落生ず。人、此誘惑者に接するときは、不知不識の間に其天性の神聖なる元氣を減ず。而して誘惑者に反抗する第一の方法あり、即ち男らしく勇ましく『否』と叫び、又『否』を實行することなり。彼は思考し、商量することなくして、直に決せざるべからず。『躊躇思慮する婦人の破滅す』るが如く、躊躇思慮する青年も破滅す。多くの人は、思慮するのみにて決心せず。然れども『決心せざることは消散することなり』。人間の完全なる知識は『我等を誘惑に導き給ふ勿れ』(譯者註、所謂主の祈の一部なり、新約聖書馬太傳六章にあり)と云ふ祈禱にあり。されながら、誘惑は青年の力を試みんとして來る、而して一度之に負くるときは、抗抵力は漸次に弱くなるべし。一たび負けよ、さらば道德力の一部は去らん。勇ましく

抗抵せよ、さらば、第一の決定は、一生の間力を與ふべし。抵抗を繰り返せ、さらばそは習慣とならん。抗拒の眞力は早年の時に造りし習慣の外堡にあり。蓋し道德的存在の器械は、主として心内の大根柢の消耗を避けんがため、習慣の媒介に依りて運行せらるべきなり。これ確に造化巧妙の排置なり。眞に人の道德行爲の大部分を形成するものは善良なる習慣なり。而して善良なる習慣や、人生百千の小行動に徐々として入り込むものなり。

ヒュー・ミラーのこと

ヒュー・ミラーは語りぬ、青年時代の一決定に依りて苦慘の生涯には有り勝ちなる強き誘惑の一より免れたることありと。石工として働き居るとき、彼の仲間は時々飲酒するを習慣とせり。一日二杯のホキスキー酒を給せられて之を呑みぬ。家に歸りて、其愛讀書(ベーコン論文集)を開きしに、文字は跳るが如くに見え、意味を了得すること能はず。ミラー曰ひぬ『余は感じぬ、自ら此狀態に落ちしは確に墮落の一なりと。余は一時自己の非行に由りて、智力の程度を下したり。平生は我特權として、之より高き智力の程度にありしものを、此時や決心をなさんがためには、決して利益ある地位にあらざりしと

雖も、余は此時に直に決心すらく、余は再び飲酒して我能力を損することをなさじと。斯くて、神の冥助により余は此決心を遂行しゆくを得たり』と。人の生涯の轉機をなし、其將來の品性の基礎を供するものは、かくの如き決心なり。此時やヒュー・ミラー正に一個の巖に會せしなり。彼適當なる瞬間に道德的勇氣を出して之を避けざりしならば、其難破せしや必せり。青年も成人も皆常に注意警戒すべきは、實に此巖なり。實に飲酒の惡習は、青年の行路に横はる致命的狂妄的なる誘惑の一なり。サー・オーター・スコット常に言ひぬ『凡ての惡德の中、人をして偉大ならしめざるもの飲酒に若くはなし』と。啻に然るのみならず、是れ節約を不可能にし、正節を不可能にし、健康を不可能にし、正直なる生活を不可能にす。青年の士、若し酒を節する能はずは、寧ろ敢て酒を禁ずべし。博士ジョンソンの如き例は多數あるべし。彼は自己の習慣に關して曰ひぬ『卿よ、余は禁ずることを得、されど節することを得ず』と。(譯者註、ジョンソンの言簡短にして或は解し難しとする人あらん。余思ふに男兒禁ぜんとせば、須らく絶對的に禁ずべし、節すると云ふが如きは、半ば禁じて半

人生の高き標準は必要なり

ば禁ぜざるもの、首鼠兩端の處置にして、男兒の取るべき道にあらずと云ふ意なるべし。)

惡習慣と强鬪して勝たんにも、吾人は、人の以て『愼重』となす所のものを得て(これ低き地位なり)安んずべからず。此事必要には相違なしと雖も、吾人は尙高き道德的向上を達せざるべからず。禁酒を誓約するが如き器械的幫助も用立つ人あらん。然れども吾人は更に進んで高貴なる思考動作を造り、習慣を改むると共に我意見を强健にし、純潔にするの大をなすべきなり。此目的のため、我自身を學び、自己の行動に注意し、我思想實行を我法則と比較すべし。自己を知ること益々深ければ、其謙虛なること益々增し、自己の力を信ずること恐らくは益々減ぜん。然れども未來に高く大なる滿足を得んがために、現在の小滿足を拒斥して得る訓練は常に最も價値あり。こは自己敎育の最も高潔なる所作なり。其理如何となれば、

『眞の光榮は
靜に己に克つことより起る。

誠に此事なくしては勝利者と雖も
第一の奴隷と稱すべきのみ。』

金儲勤儉に關する諺

金儲の大秘密を公衆に知らしむる目的を以て著作出版せらるゝ通俗書甚だ多し。然れども、次に揭ぐる如き各國の諺に示す秘訣より外に特に秘訣といふべきものなし。曰く『片(ペンニース)に注意せよ、さらば磅(パウンド)は自身にて注意せん』。曰く『勤勉は幸運の母なり』。曰く『辛苦(ペイン)なければ利得(ゲイン)なし』。曰く『汗(スウット)なければ、甘味(スウィート)なし』。曰く『働け、さらば汝は有(も)たん』。曰く『世界は忍耐勤勉者の所有(もの)物なり』。曰く『貧債の中に起床せんよりは、寧ろ晩餐を取らずして寢ぬる方勝れり』。かくの如きは俚言的哲學の標本の二三にして、此世に成功する方法に關する古來人類經驗の貯蓄を體現したるものなり。是等俚言は書物なるものゝ行はるゝ遙か以前より人口に膾炙し、他の諺と等しく、通俗道德の第一條項なりき。之に加ふるに、是等の諺は、時代の長きを經て敢て衰へず、而して日々の經驗は益々其正確、効力、健全について證明す。ソロモンの箴言(譯者註、舊約聖書にあり)は、勤勉の力について、又金錢の用法及び濫用について、吾人

に教ふる所甚だ多し。曰く『勞作に鈍きものは大浪費者の兄弟なり。』曰く『汝、懶惰漢よ、蟻を見よ、蟻の遣方を思ひ、而して賢くなれ』。曰く『懶惰者に貧乏の來るは、旅人の如く疾く、缺乏の如きは武士の如く速なり。されど勤勉正直なるものは富を造る』。曰く『飲酒家と大食家は、貧窮になるべし。魯鈍は人に襤褸を著すべし』。曰く『汝其業に勤勉なる人を見るか、彼は國王の前に立つ』。されども次の語は就中最も優れたるものなり『黄金を得るよりも智慧を得る方勝れり。智慧は寶石に勝る。人の望み求むるに足る萬事の中、智慧に比すべきものはなし』。

簡單なる勤勉節儉も、普通の勞作的能力の人々を獨立せしむるにいたく効あり。勞働者と雖も、若し注意して節約を行ひ、無益なる費用の支出を警戒せば、また然るを得べし。一片はまことに一小額のみ、然れども千萬の家族の便安は各片の適當なる消費と貯蓄とに由る。若し人その辛き勞作の結果なる小なる各片を其指より逃れ出づるに任せば(或は酒店に於て、或は此處に、或は彼處に)彼は自己の生活、單に動物的賤役の生活に過ぎざるを見出さん。

之に反して、彼若し各片について注意せば(一部は毎週保險會社に收め、は或貯蓄銀行に預け、殘餘は之を妻に渡して家族の安らかなる生計と教育とのため、注意して費さしむ)彼は直に次の事を見出すべし。即ち此小事に注意せしことは、彼に報ゆる所甚だ豐かにして、資産を增し、家庭の便安を增し、心は未來の掛念より悲むことなきに至るべし。若し、勞働者にして、高き欲求と豐富なる精神を持たば(これ實に總ての世間的財寶を遙に超ゆる富なり)單に自身を助け得るのみならず、人生の行路に於て、他人に利益幇助を與ふるを得べし。此事たる工場にある普通の勞働者にすら可能なり。是れ有名なるマンチェスターのトーマス・ライトの著しき生涯の證明する所なり。彼は鑄造所に於て毎週給料を取り居る間に、多數罪人の救濟を企てゝ成功せり。

囚人の放免せられたるものが、正業の習慣に歸らんとして困難を感ずることに、トーマス・ライトの初めて注意せしは偶然の事に由れり。暫時にして彼の心は此事に奪はるゝに至り、此障碍を除かんことは、彼の一生の目的となれり。ライトは朝六時より夜六時まで働きたれども、尚ほ自身の用に供す

べき餘暇ありたり(特に日曜日には)、而して彼は此餘暇を出獄人のために用ひたり。此出獄人たるものは、當時今よりも尙ほ閑却せられたり。然れども毎日數分間と雖も、之を善く用ふれば、大事をなすを得、十年にして此微々たる勞働者ライトは、堅く其目的を固守して、三百人に下らざる出獄人を再び暴惡の生涯を續けんとするより救ひたり。げに驚くべきにあらずや。かくして彼はマンチェスターの道德の醫師(モーラル・フィジシアン)と呼ばるゝに至り、牧師等多くの人の失敗せし所に屢々成功せり。かくの如くにして彼は子を改善して親に送り、子女の家出せるものを家に送り還し、多くの出獄人が正しき稼業に就くやう計りやりたり。

此事業たる決して容易にあらず、金を要し、時を要し、精力を要し、慎慮を要し、就中品性を要し、又品性の常に附與する信用を要す。ライトがかゝる放浪者の多數を其鑄造所にて得る小給料に依りて救ひしこと、誠に著しき事實と謂ふべし。彼は其勞働生涯を通じて、平均一年百磅に至らざる收入を以て、是等總ての事業を成せり。而して免囚人(ライトが彼等に負ふ所、只人間同士

甚だ正直なる勤勉は貴むべし

が互に負ふ所の深切をなすべきことのみ、他にあるにあらず)に金錢的幇助を與へ得しのみならず、又其家族を安穩に養ひ、且節儉と配慮とにより、老境に處するための貯金をなすを得たり。毎週彼は其收入を慎慮留意して配當せり。即ち衣食のために幾許、地主に對して幾許學校の教師に對して幾許、貧窮人に對して幾許と。而して此配當を最も明確になせり。かゝる方法にして此卑賤なる勞働者は、其大業を追求し、其結果や上來簡單に記す所の如し。げに彼の生涯は人間志望の力、注意精勵に依りて用ひし少額の金の力を著しく例證し、就中强精廉直なる人格が、他人の生活行動に及ぼす影響を著しく例證す。

正直に勤勉の途を歩むことは、そか土地を耕すことにせよ、器械を造ることにせよ、織物を織ることにせよ、又は帳臺の背後にて物品を賣ることにせよ、恥辱にあらずして名譽なり。若者はヤード尺を取り扱ふこともあらん、或はリボンの一片を計ることもあらん、彼ヤード尺をヤード尺とし、リボンをリボンとして、短きも狹きも之に從ひ、能く業に忠實にして徒らに粗大に流

れずば、此職業が恥辱なりと謂ふこと毫もこれあるなし。フラー(譯者註、十九世紀合衆國の高等法院長)曰ひぬ『正しき職業を持つものをして赤面せしむる勿れ、之を持たざるものをして赤面せしめよ』と。又監督ホールは曰ひぬ『其前額の業なると心の業なるとに論なく、凡ての業務の終りは甘美なり』と。卑賤なる職より身を立てし人、恥づるを要せず、たゞ正に艱難を踏破せしを誇るべし。亞米利加の一大統領、其紋印如何を問はれし時、青年の時木挽人たりしを想ひ起して、答へて曰く『シャツの兩袖』と。ニスメスの監督フレチールは、少時脂蠟燭工たりき。佛蘭西の一博士一日フレチールが出所の卑賤を誹る。フレチール乃ち答へて曰く『御身若し余と同一の境遇に生れしならば、今日も尚蠟燭工たりしならん』と。

單なる金儲

金儲に於て徒らに精力熾なるも、金の蓄積と云ふこと以上に何等の目的を有せざるは世の常なり。人、心身を擧げて金儲のことに從はゞ、富まざるもの稀なり。腦髓の力小なるも可なり、たゞ儲けし所より少く費し、ギニー(譯者註、貨幣の名)にギニーを加へ、かき集めて貯蓄せよ、然らば、黄金の堆積次第に

高まらん。巴里の銀行家オスターワルドは初め貧人なりき。彼は毎夕居酒屋に赴き、夕飯に三合程の麥酒を呑むを常習としけるが、其間落ち散れる木栓を集めて衣囊に入れたり。八年を經て彼の集めし木栓は八金に賣れたり。此金額を基礎として、彼は重もに株式賣買に依りて其大資産を蓄積しぬ。死後に殘す所實に三百萬法なりしと云ふ。

ジョン・フォスターの記す所

ジョン・フォスター(譯者註、十九世紀、米の地質學者)また右の如き決志が金儲に於て大をなす事例を記せり。一青年あり、其遺産を放蕩に浪費して、遂に全く窮乏と絶望とに來れり。彼は自殺せんため家を出でしが、其以前の所有地を見下す一高地に登りて止まりぬ。彼は坐しぬ、暫し思ひ廻らしぬ、而してかの所有地を回復せんとの決心を抱いて起き上りぬ。彼は街頭に歸りぬ。偶石炭を車より卸して、敷石の上に道をなして置けるを見之を家に運び入れんことを申込みて用ひられたり。彼はかくして數片を獲又禮物として少許の飲食物を求めて與へられ、得たる數片は貯蓄したり。此賤役を續けて彼は尚幾片かを得て、之を貯へ、遂に或家畜を購ふを得て、之を賣りて利を得たり。

富は毫も人の價値の證明たらず

彼は次第々々に此取引を擴大して、遂に富裕となれり。而して其結果は實に、かくの如し。彼は其所有地を回復して、遂に頑固なる守錢奴として死せり。彼の埋葬せられしや、これ單なる土(人間とは稱するも)が土になりしまでなり。かくの如き人若し高貴の精神を有せしならば、自己に對しても、他人に對しても、恩惠者となり得しものを。然れども彼や、實に其生涯も其最期も共に卑陋なりしと謂ふべし。

他人を助くるため、又自身老後の便安獨立のために貯蓄するは、褒むべきこと、又大に推奬すべきことなり。されど只富をこれ得んがために、蓄財するは、心狹く吝嗇なるものゝ特性なり。賢者が注意して警戒するは、此不正なる貯蓄癖の成長に對してなり。此警戒なくんば、青年の時單なる節約なりしものの、老年に及びては貪慾と變じ、青年の時職分なりしもの、老年に及びて惡德とならん。『害惡の根』となるものは、金錢其者にあらずして、金錢慾なり。——金錢の慾や精神を縮め狹め、之を閉ぢて心廣き生活行動をなす能はざらしむ。故に、サー・オーター・スコットは、其小說中の一人物をして言はしめ曰『一片

の貨幣は拔刀が人身を殺すよりも多く精神を殺す』と。餘り專心に事務を勤め過ぐるときは、人格を器械に化するものなり。實業家は常經に陷りて、これ以外を見ざること屢々なり。彼若し自身を中心として利己的生活をなすときは、他人を見るに、唯彼等が己に相關する點に於てのみす。かくの如き人の本帳より一枚を取り去れ、然らば、諸君は彼等の死活を握りしもの、自由になし得べし

世俗的成功は金錢の貯蓄額を以て計れば、疑ひもなく人目を眩耀するに足る。而して萬人其性の自然として、多少こそあれ皆世俗的成功を讃美するものなり。堅忍鋭敏、熟練大膽にして、常に機會を攫んで推し進む人は、世に於て『出世』せん。されども、彼等が品性の毫も高きものなく、眞正なる善心の毫も認むべきものなきは有り勝ちのことなり『金錢の論理』より高き論理を認めざる人、或は甚だ富める人ともなり得ん然れども、かゝる人や世にも稀なる憐れなる生物たること、終始一貫なり。想ひ見よ、富は道德的價値の證左たること少しもなし。其光輝はたゞ人をして此富の所有者の無價値を注意

せしむるのみ、恰も土螢の光が蝟嚕の所在を露すが如し。

世人が其金錢の慾に自己を捧ぐる遣口について想ひ起すは、猿(人類と同族の滑稽物)の貪婪のことなり。アルヂール(譯者註、亞弗利加にある佛の殖民地)にてカバイル族の一農夫、瓢簞を樹に固く縛りつけて、中に米を入れ置きたり。瓢簞の口は恰好猿の前足を入れ得る程なり。猿は夜樹の下に來り、其前足を入れて、米を握みたり。彼は足を退かんとしぬ、されど足は瓢簞の口に緊縮せられて出す能はず、而して彼は遂に如何ともすること能はざりしなり。かくの如くにして彼は朝まで此處にありき。而して手に其獲物を持ちしまま、捕へられしとき、如何に其顏の可笑しかりしよ。此小話の寓意は甚だ廣く人生一般に應用することを得べし。

金錢の力過重せらる

大體に於て、金錢の力は過重せらる。社會人道のために爲されたる最大事は、富人の爲せし所にもあらず、又寄附金醵集に依りて爲されし所にもあらず、常に資財少きものゝ爲す所なりき。基督教は實に最貧の人々に依りて地球の半面に傳播せり。最大なる思想家、發明家、藝術家等は富貴ならざ

る人、其多くは世間的境遇に於ては、手工の類以上たらざりしなり。今日まで然りしが、今後も常に然るべし。富財は活動の刺戟となるよりは妨害となること多し。而して多くの場合に於て幸福なると同樣に又不幸たるなり。遺產を受け繼ぎし青年は、人生行路の難を味はず、何物も願望すべきものなき故、忽ち人生に飽くに至る。苦み求むべき物なき故、彼は『時間』を持て餘し、道德的にも、精神的にも、昏睡の狀にあり。其社會に於ける位置は、恰も潮に洗はるる水蟲の位置の如し。

彼が唯一の勤勞は、時を費すことなり、而してこれ極惡の勤勞なり、精を勞らす禍なり。

然りと雖も、正しき精神に勵まされし富人は、怠惰を男らしからずとて斥けん。若し彼富財の所有に伴ふ責任について思はゞ、富まざる人よりも尙多く働くべき所以を感ぜん。然れども人生の實際を見るときは、富人にかゝる風ありと覺えず。アーガーの完全なる祈禱の貴き意味は、吾人たゞ之を知らば最上のものならん。曰く『我に赤貧をも賜ふ勿れ、富貴をも賜ふ勿れ、只我に

ジョセフ・ブラザートン

便なる食を以て我を養ひ給へ』と。下院議員故ジョセフ・ブラザートン、一の格言を遺しぬ、これマンチェスターのビール公園にある彼の記念像に記さるるものなり。曰く『我富は我所有物の大なるに存せず、我需要物の小なるに存す』と。彼は工場の小僧と云ふ低き地位より起りて、正直、勤勉、時間の嚴守、克己等の實行に依りて、有用の高位に上りたり。晩年に及びて、彼は下院に出でずして其屬するマンチェスターの一小寺の牧師として其務を盡したり。彼の求めし所の『光榮』は『人に見える』ことにあらず、又人の褒讃を起すことにあらず、正直、廉潔、眞實、親愛の精神を以て、人生日々の職分を其最小最賤に至るまで盡したりとの自覺を得んこと是れなり。彼の平生を知る者は、彼の爲す萬事に於て、此目的の見ゆるを感じたり。

眞の體面

體面を重んずるは、其最良の意味にては善事なり。體面を重んずる人(尊敬すべき人)とは見る値ある人なり。然れど體面を重んずると云ふも、單に人の『見え』を飾るが如きは、如何なる意味に於ても見る値なし。善良なる貧人は、富める惡人よりも遙に尊敬の値あり。――謙遜沈默なる人は二輪馬車を所

コリングウッド卿

有する快活俊秀なる惡物よりも、遙に尊敬の値あり。整平豐富なる心と有用の目的とに富む生涯は、其人の有する地位如何に係はらず、普通世俗の所謂『尊貴』よりは遙に値あり。吾人は思ふ、人生の最高目的は男らしき品性を造り、身體精神(心、良心、心情、神魂)の出來得るだけの發達を力むるにあり。此事實に人生の終局なり。他は凡てこれが手段と稱すべし。快樂を得ること多く、金錢を得ること多く、權力地位を得ること多く、名聲を得ること多きが最も成功せる生涯にあらず、最も勇ましき品性を得、有益なる事功と人間の職分とを最も多くなせし生活こそ然りと謂ふべけれ。金錢は、或意味に於て力なりと。洵に然らん。然れども、明智、公心及び德行も亦力なり、而して金錢よりは高尚なる力なり。コリングウッド卿記しぬ『他人をして養老年賜金のために辯ぜしめよ、余は貧薄なる事々に勝らんと努むるにて、金なくて、富有なるを得べし。余は余の國に對する務を私利的動機にて汚すなからんと欲す。老いしスコット(彼の園丁なり)と余とは、菜園を治めて、前に增す費用を要せずして、暮らし行くを得』と。或時また彼は曰ひぬ『余は我行爲に對する動機を有す。此動

機は百の年金を賜はると云ふも枉げざるなり』と。

財産を造ることは、人をして所謂『交際場裡に入る』を得しむ。然れども、交際社會にて敬重せらるゝには、心、擧動、心情等に關する諸性能を有せざるべからず。然らずんばたゞ富人たるのみ、アヽこれ以上たる能はず。今日『交際社會には』古のクレイサスの如く富める人あり。されどかゝる人にして、人より少しの尊敬をも敬重をも受けざるものあり。これ何故ぞや。彼等は只金囊の如きのみ。其勢力とては唯金庫の中に存するものゝみ。世にて名ある人――言説の指導者、支配者――眞の成功者、有用者――は必ずしも富人たるを要せず、たゞ品性誠直の人なり、經驗あり訓練ある人なり、道德的に卓越せる人なり。トーマス・ライトの如き貧人は、世間的財寶を有すること極めて少なけれども、單なる世俗的成功者(金囊を有し土地を有するまでの人)を、毫も嫉妬の情なくして、見下すならん。これ其天性を訓練せしを欣ぶ故なり。機會を善用して惡用せざりしを欣ぶ故なり。其才能と資財との最上を盡して人生を渡り來りしを欣ぶ故なり。